

1.計画の主旨

東淀川区は、地理的に淀川と安威川・神崎川に挟まれた地盤の低い地域であり、過去に幾多の災害により浸水した経験がある。このため、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機として、区民の水害に対する意識が一層強くなっている。

東淀川区においては、「地域防災フォーラム」を開催し、防災関係機関、地域住民と意見交換を行う中、地域防災力向上のため課題等を抽出し互いに認識を行った結果、一層の地域防災力の向上の必要性の認識を行い、「自然災害に強いまちづくり」について、東淀川区における地理や建物等の調査を専門家に委託し、専門家による指導・調査・研究など、その研究成果や地域毎の調査結果等を取りまとめた東淀川区のホームページ等で公表を行う。

また、地域ごとの地域防災計画作成にあたっては、当大桐地域をはじめ区内3地域において、地域実情にあわせた講演会、区役所及び地域住民によるワークショップ等を行い、地域ごとの地域防災計画を策定に関わる助言等を行うとともに「災害に強いまちづくり」を構築することを目的とする。

2.地域の特性

2-1.東淀川区の概況

東淀川区は淀川の下流に位置し、神崎川と淀川に挟まれた平野の地形である。

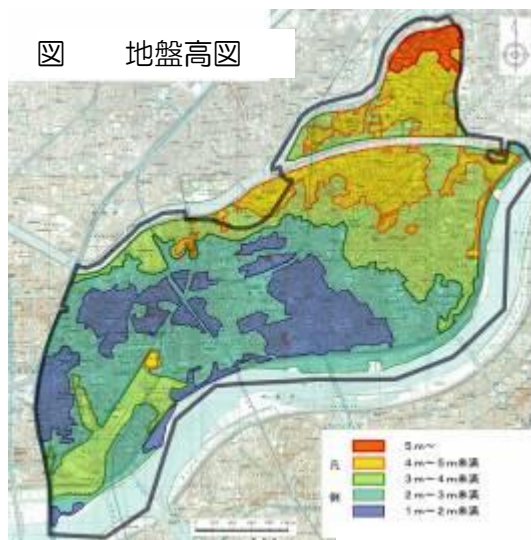
標高は、海拔1m～5mと低く、北東部で4m～5m、中部は1m～2m、南西部で1m～4mなどとなっている。

全体が、淀川の氾濫により形成された沖積層で泥・砂・礫などよりなる地盤で、未固結の軟弱な堆積層が表層に広がっている。

人口は約17万人で、約9万世帯が暮らしており、平均世帯人員は1.9人/世帯で、人口密度は130人/haと高密度な市街地を形成している。

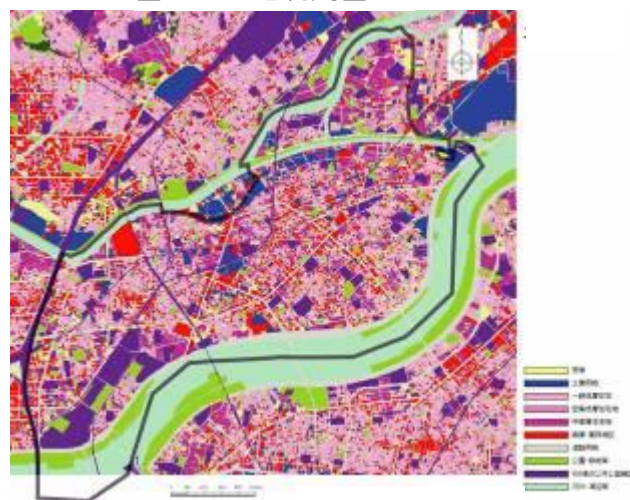
土地利用では、低層住宅を主体とし、北部や西部などには中高層住宅が多くみられる。幹線道路沿いや、駅前などには商業・業務施設が多く、河川沿いなどには工業施設が立地している。

図 地盤高図



作図) 岡本

図 土地利用図



資料) 国土地理院

2-2.自然環境

(1)地盤高

大桐地域(以下、「本地域」という)の地盤の高さは、標高3m~5mの低平な平野の地形で、北部と淀川堤防付近で高く、中央部以南は3m~4mと低い土地が広がっている。

(2)地盤

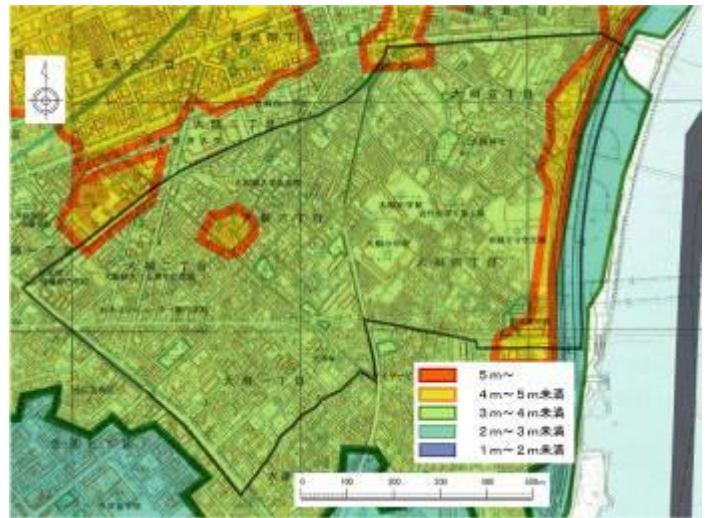
本地域の地盤は、淀川などの河川により運搬された砂や泥などが堆積した沖積層が厚く堆積している。

この地層は未固結であり、地盤は軟弱で地震時などには特に揺れやすい。

(3)河川

本地域は、東に淀川が南に流れ、河川に面した土地である。明治時代後期に新淀川の開削が完成し、北大阪地域の治水安全性が向上したが、河川に挟まれた本地域は、水害の危険性が高いといえる。

図 地盤高図



作図) 岡本

2-3.社会環境

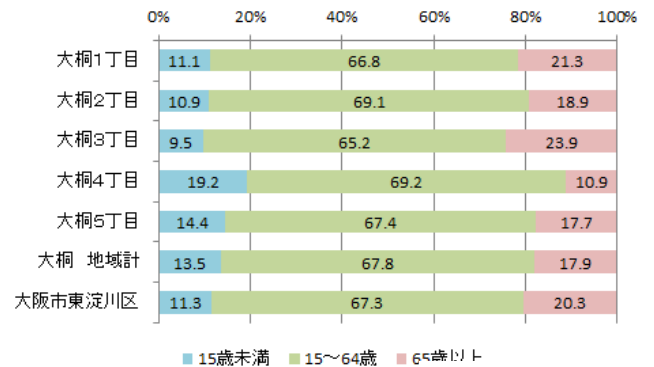
(1)人口・世帯数

本地域の人口は、2012年国勢調査によれば、11,653人で5,3113世帯であり、2.2人/世帯となっている。

本地域の年齢3階層別人口は、次のグラフに示すように、大桐32丁目が高齢化率が23.9%と最も高く、次いで大桐1丁目で21.3%などの順となっている。

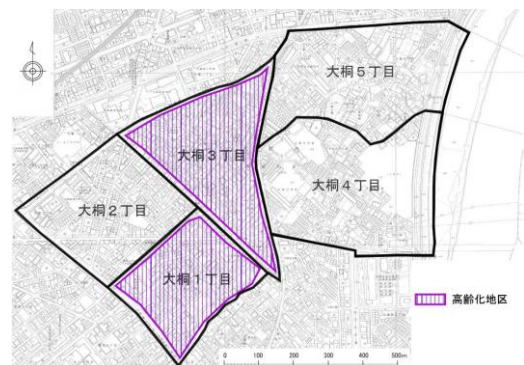
東淀川区全体と比較すれば、平均世帯人員では、区全体が1.9人/世帯、高齢化率は区全体では20.3%であり、本地域の特徴は、平均世帯人員、高齢化傾向は、ほぼ同様であるといえる。

図 年齢別・町別人口比



資料) 国勢調査 2010

図 高齢化地区



作図) 岡本